

目黒労協

2021夏季闘争ニュース

No.21-10 2021年9月1日

発行:目黒地区労働組合協議会/教宣部

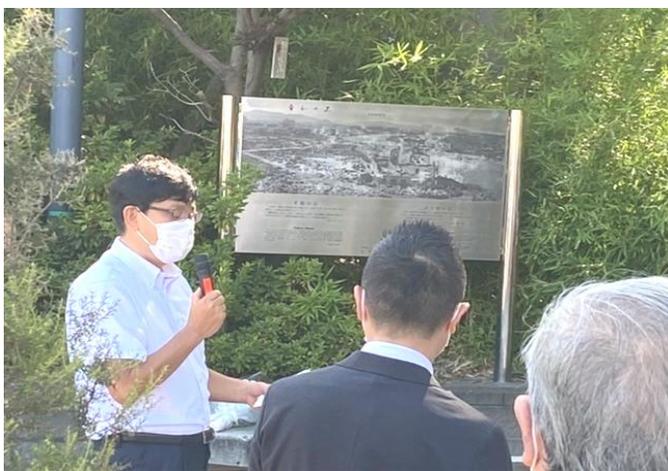
【HP】<http://meguro-rokyo.jp/>

メール union@r05.itscom.net

働く者には平和が第一!

8月6日「平和の石」

目黒区役所近くの公園、「平和の石」前で平和祈念。広島市役所で被曝した石、広島市職労と目黒区職労の縁で1986年に目黒へ。午前8時10分に黙祷の後、荒巻副区長、木全区職労委員長が挨拶。区職労女性部などが折り鶴を。帰りに寄った区役所、元の大ホール(大会議室)がワクチン接種会場になっていました。



折鶴はこの後、広島に奉納されます

宣伝行動(目黒平和の波)

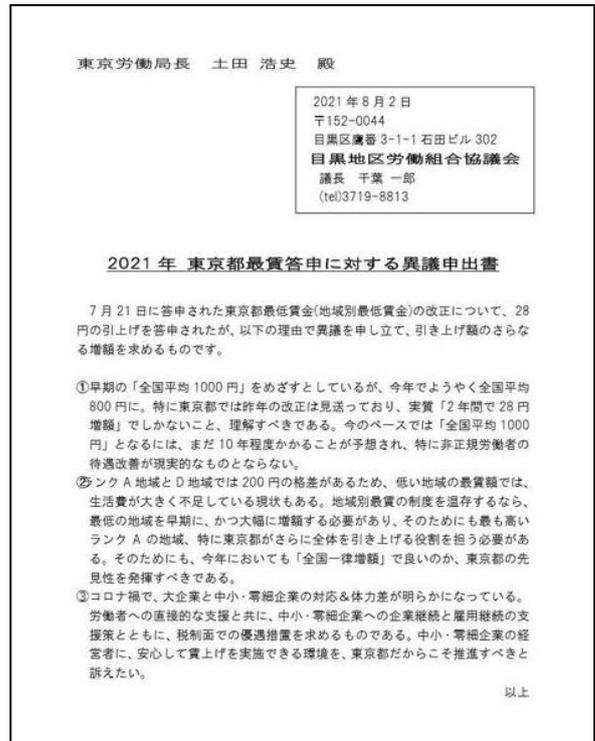
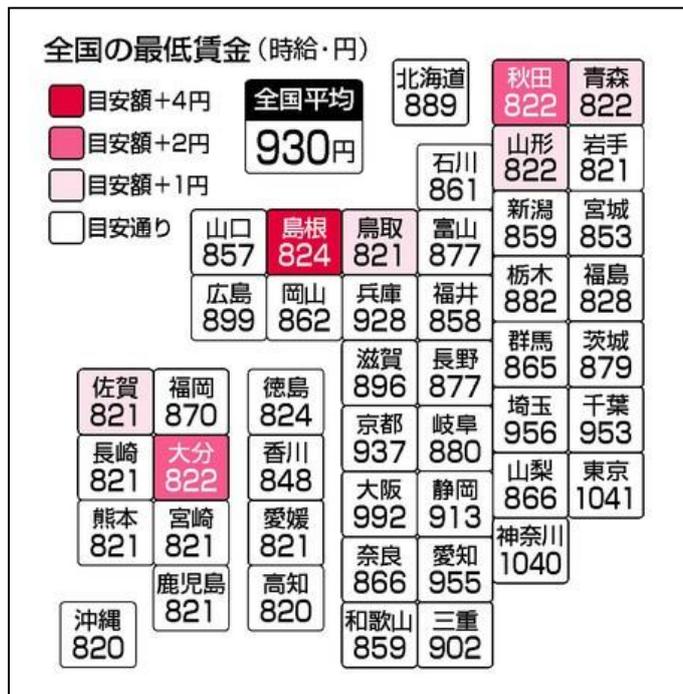
8月6日ヒロシマの日。朝の「平和の石」から、夕方は学芸大学駅前で、目黒平和委員会、土建目黒の方々などと核兵器禁止条約への参加を訴えて宣伝行動を行いました。(目黒労協/事務局)



東京最低賃金、低額改訂に異議:28円UPでは足りない!

東京最低賃金審議会に異議申立て提出

東京地区最低賃金審議会は7月21日、東京都最低賃金を28円引上げ、時給1041円とする答申を行いました。これは先の7月16日、全国A～Dランク全地域28円引上げする中央最低賃金審議会の答申をそのまま踏襲したものです。これに対する意見の公募が、8月5日を締切に7月21日公示され、目黒労協もめぐろユニオンとともに低額改訂に異議を申し立てました。目黒労協HPに収録しました。→ **目黒労協HPを見て!**



全国で28円に上乗せ答申続く

全国では中央最賃審議会の一律28円UPに対して、それでは不十分と1～4円の上乗せで答申を7県で勝ち取りました。結果、全国加重平均額は930円。最も低い820円は高知・沖縄2県に。また8/5決定の韓国の2022年の全国一律最低賃金(時給)は前年比5.1%増の9,160ウォン(約879円)。日本の半数以上の県を上回る。(目黒労協/事務局)

最低賃金と組合づくり宣伝を続けてます!

8月10日夕方、中目黒駅前、目黒労協最賃宣伝行動。プラスター、ボード、ハンドマイク自動再生、チラシ入りティッシュなど、13名で宣伝しました。とても暑い日でした、最高気温は39度?!

コロナ禍ですが、毎月の宣伝行動を続けています。

次回は9月18日(土) 13:00～ 学芸大学駅予定



職場報告-コロナ禍での組合活動

目黒区職員労働組合保育園支部

コロナ感染症に伴う労働環境を整える運動

新型コロナウイルスはいまだに終息の見通しが立ちません。保育園では昨年の1回目の緊急事態宣言の時は、登園自粛・休園・特別保育の措置を取りましたが、それ以降は自粛や休園を求めることはせず、通常保育を行っています。保育現場ではコロナ感染の不安と、自分が感染させてしまう不安を常に抱えながら保育をおこなっています。日々の消毒作業や、密にならない工夫など今までの通常業務にプラスされ、業務過多の要因の1つとなっています。クラスターをできる限り発生させないために、職員は黙食や複数で同時に食べないなど、環境の保障もない中で行うことが求められ、安全衛生の観点からも大きな課題となっています。それでも十分な配慮をしながら、夏のプール・水遊びや運動会等を工夫しながら行ってきました。



保育園支部は、昨年9月23日に「新型コロナウイルス感染症に関する要求書」として、①消毒のための会計年度任用職員の採用、②消毒液・ビニール手袋等、感染症対策に必要な物は消耗品予算とは別に現物支給すること、③密を防ぐために配置基準の見直しを、④妊婦の在宅勤務を保障するための人員の保障を、⑤100人未満の園にも用務の会計年度任用職員の配置を、の5つの要求を出しました。どれも保育現場では切実な要求です。

その結果、①消毒のために会計年度任用職員を朝夕1Hずつ時間の延長、②妊婦の在宅勤務を保障するために、今まで2人だった応援要員を6名に増員、③消毒液やビニール手袋など現物支給されるなど、多くの要求実現を勝ち取ることができました。一年以上続くこの事態は、既に緊急事態ではなく日常と化しています。常に科学的知見に基づいた対応を求め、人員や環境の整備を要求し運動していきます。

区立保育園民営化に対する取り組み

1、新たな民営化計画

目黒区は、2020年7月22日「区立保育園の民営化に関する計画の改定の進め方について（案）」を發出し、引き続き民営化を進める方向とする一方で、目黒区全体の保育水準維持のために「公立保育園の役割とそれに必要な適正配置を明確にする」としました。当初2021年2月の文教・子ども委員会にて議会報告される予定でしたが、コロナ感染症による緊急事態宣言のため延期となり、4月の文教・子ども委員会にて「区立保育園の民営化に関する計画（令和3年度から11年度）」素案が報告されました。

2、私たちの取り組み



目黒区の計画案が出され、まずは全組合員に計画の内容を周知する意味、区立園の役割を明らかにすることを目的として、「区立保育園職員アンケート」に取り組みました。9月10日～16日と短期間であったにもかかわらず、対象者370人中277人から回収（回収率約75%）されました。その中で「区立保育園の役割」についても様々な声が寄せられました。また、区立保育園の内部だけの議論にとどまらず、外から見た区立保育園の役割についても明確にするために、目黒区内の私立認可園、小規模園、家庭福祉員102か所についても

アンケートに取り組みました。46 か所（45%）からの回答が寄せられ、区立保育園への期待の高さが浮き彫りになりました。これらの事を区職労に設置した「対策委員会」で「民営化計画に対する見解」としてまとめ、組合の考えを素案に反映してもらうために当局と意見交換を三度行い、「区立保育園の役割」に明記させることが出来ました。この役割を果たすためには、最低でも 15 園の区立保育園を存続させることが必要であるのに対し計画では 10 園で、民営化計画は受け入れることはできません。

3、地域・保護者とともに

いち早く目黒保育問題協議会が立ち上がり、ビラの作成など積極的に進めています。11 月～12 月にかけて組合員が 1 人 20 部の割合で地域にビラを配布しました。また、2021 年 5 月には「区立保育園をこれ以上減らさないため」のビラを新たに作成し、地域団体等に意見提出の呼びかけを支部としても行っています。該当園の保護者も何故民営化なのかと計画発表後から動き始めており、連携して運動をしています。（7/9 記、目黒区職労執行委員）

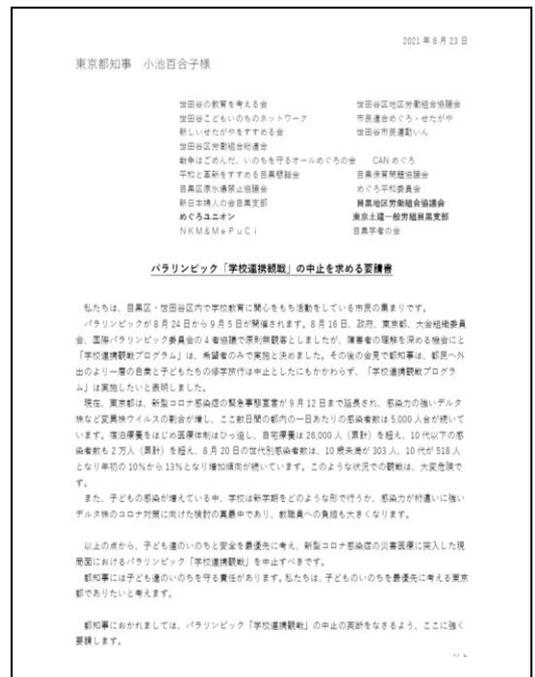
地域での共同の取り組み

東京都はパラリンピックの『学校連携観戦』を中止に！

8月23日目黒・世田谷の市民団体、労働団体連名で、東京都知事・東京都教育委員会あてにパラリンピック『学校連携観戦』の中止を求める要請書を提出

目黒労協では 6 月 9 日、都教組目黒支部の要請に応えて、目黒区教育委宛てに「児童のオリパラ観戦中止を求める」要請書に賛同、あわせて市民団体の目黒区議会への「学校連携観戦中止を求める意見書」陳情にも賛同しました。目黒区は 6 月 22 日オリパラ観戦中止を決定、7 月 9 日東京都もオリンピックへの「学校連携観戦」中止を決定した。しかしパラリンピックについては未定となった自治体も少なくなく、各地でパラリンピック学校連携観戦の中止を求める声が強まっています。そこで目黒・世田谷の市民団体・労働団体と東京都に向けての要請を行ないました。

→ [目黒労協HPを見て！](#)



8月24日 目黒労協執行委員会開催

8月24日午後7時～、土建目黒会館にて目黒労協執行委員会開催。コロナ禍状況、パラ学校連携観戦、最賃情勢、目黒労協大会準備など論議。

9/18 土曜 13:00～ 未組織宣伝（学芸大学）

10/2 土曜 12:00～ 新最賃額宣伝行動（中目黒）

実施を決定。労協レク企画「弘法山・吾妻山ハイキング」11/20（土曜）で準備など検討しました。

次回執行委員会は 9 月 28 日（火）

